

デリカフーズグループ

# 平成27年3月期第2四半期決算説明会

*Delica Foods Group company  
information*



デリカフーズ株式会社

DELICA FOODS CO., LTD.

(東証2部 証券コード:3392)

# 平成27年3月期第2四半期 決算概要

# 決算概要①



## <連結損益計算書>

単位:百万円

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	構成比	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)	構成比	前年 増加率
売上高	13,050	100.0	13,937	100.0	6.8
売上原価	9,866		10,457		
売上原価率	75.6%		75.0%		
売上総利益	3,184	24.4	3,479	25.0	9.3
販売費及び 一般管理費	2,870	22.0	3,128	22.4	9.0
営業利益	313	2.4	350	2.5	11.8
経常利益	308	2.4	368	2.6	19.4
四半期純利益	178	1.4	233	1.7	30.6
1株当たり四半期 純利益(円)	30.11		38.74		



## <連結貸借対照表>

単位:百万円

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産	6,212	6,421
固定資産	7,140	7,299
資産合計	13,352	13,721
<b>負債の部</b>		
流動負債	3,804	4,269
固定負債	4,684	4,417
負債合計	8,488	8,687
<b>純資産の部</b>		
株主資本	4,811	4,965
純資産合計	4,863	5,033
負債純資産合計	13,352	13,721
1株当たり純資産(円)	805.40	831.79
自己資本比率(%)	36.3	36.6



## <連結キャッシュ・フロー計算書>

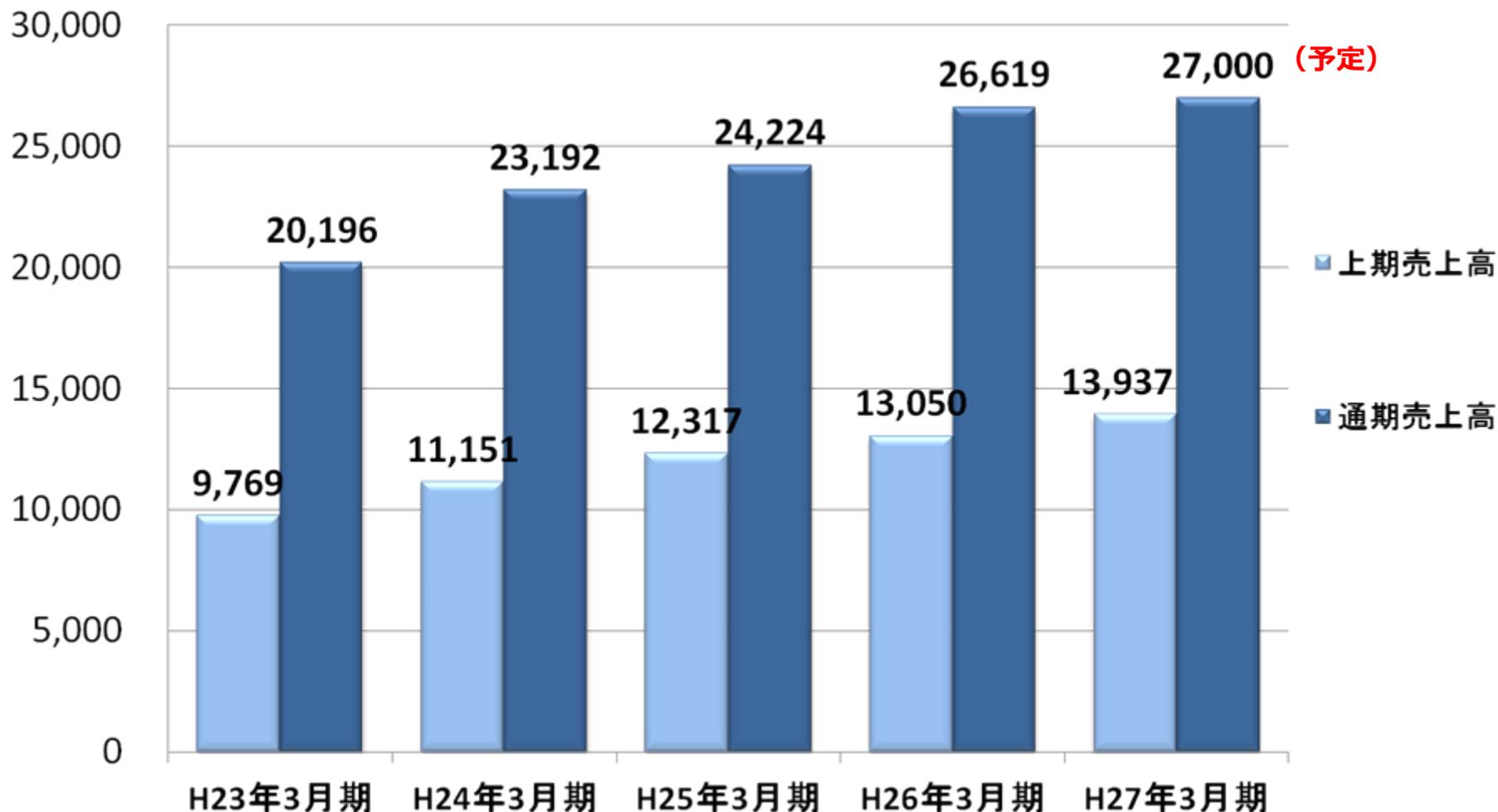
単位:百万円

	前第2四半期連結累計期間	当第2四半期連結累計期間
営業キャッシュ・フロー	399	626
税金等調整前四半期純利益	301	382
減価償却費	173	223
売上債権の増減額(△は増加)	136	△59
たな卸資産の増減額(△は増加)	△8	△2
仕入債務の増減額(△は減少)	△62	△15
未払い金の増減額(△は減少)	8	150
法人税等の支払額	△147	△84
その他	△2	33
投資キャッシュ・フロー	△1,019	△420
設備投資	△1,015	△456
その他	△4	36
財務キャッシュ・フロー	1,348	△37
配当金の支払額	△82	△83
借入金の純増減額(△は減少)	1,454	72
その他	△23	△26
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	729	168
現金及び現金同等物の期首残高	1,809	2,554
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,539	2,723

# 業績推移①



## 売上高 過去5年上期・通期の推移〈連結〉

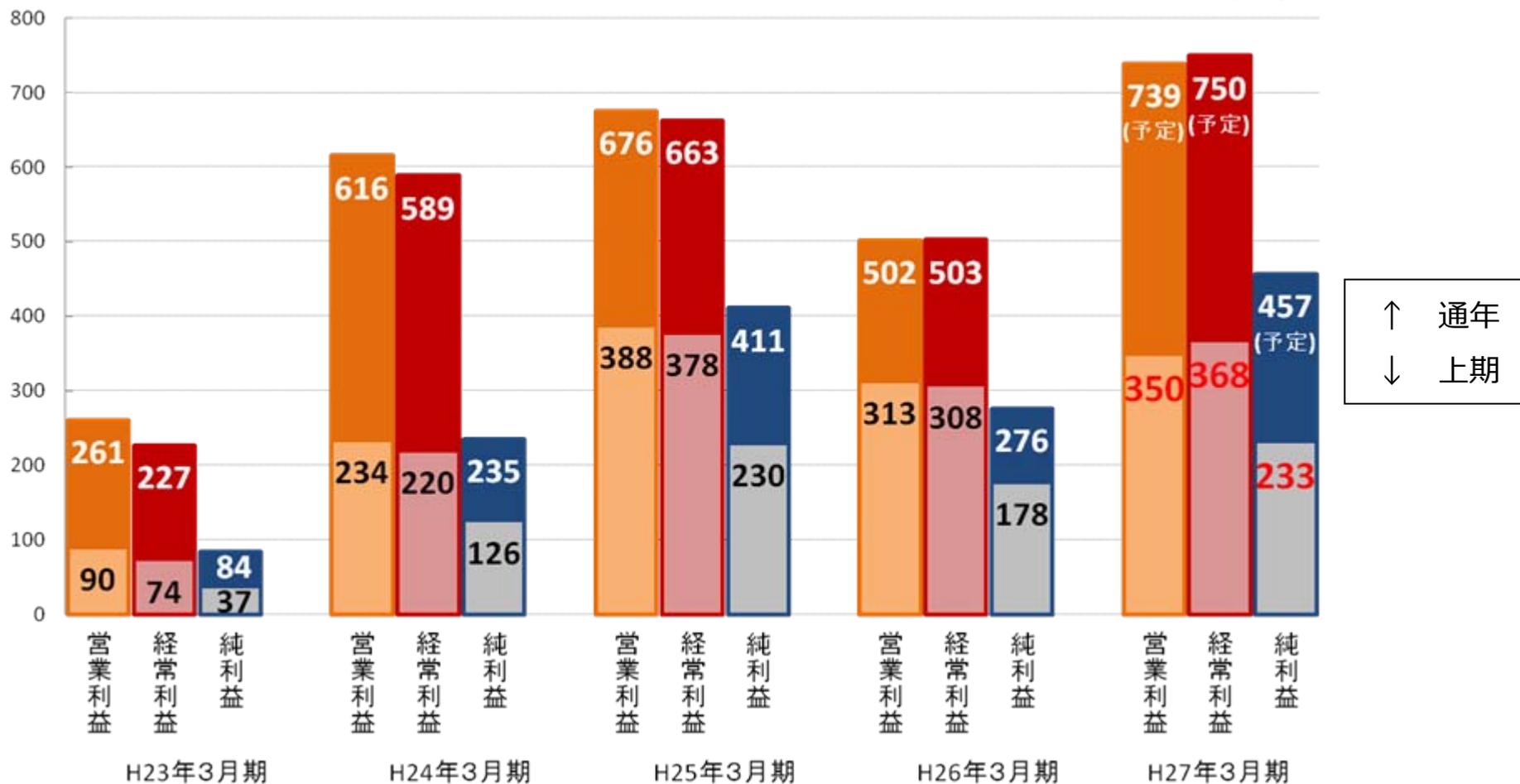




# 業績推移②

## 営業利益・経常利益・当期純利益 上期・通期の推移〈連結〉

単位:百万円

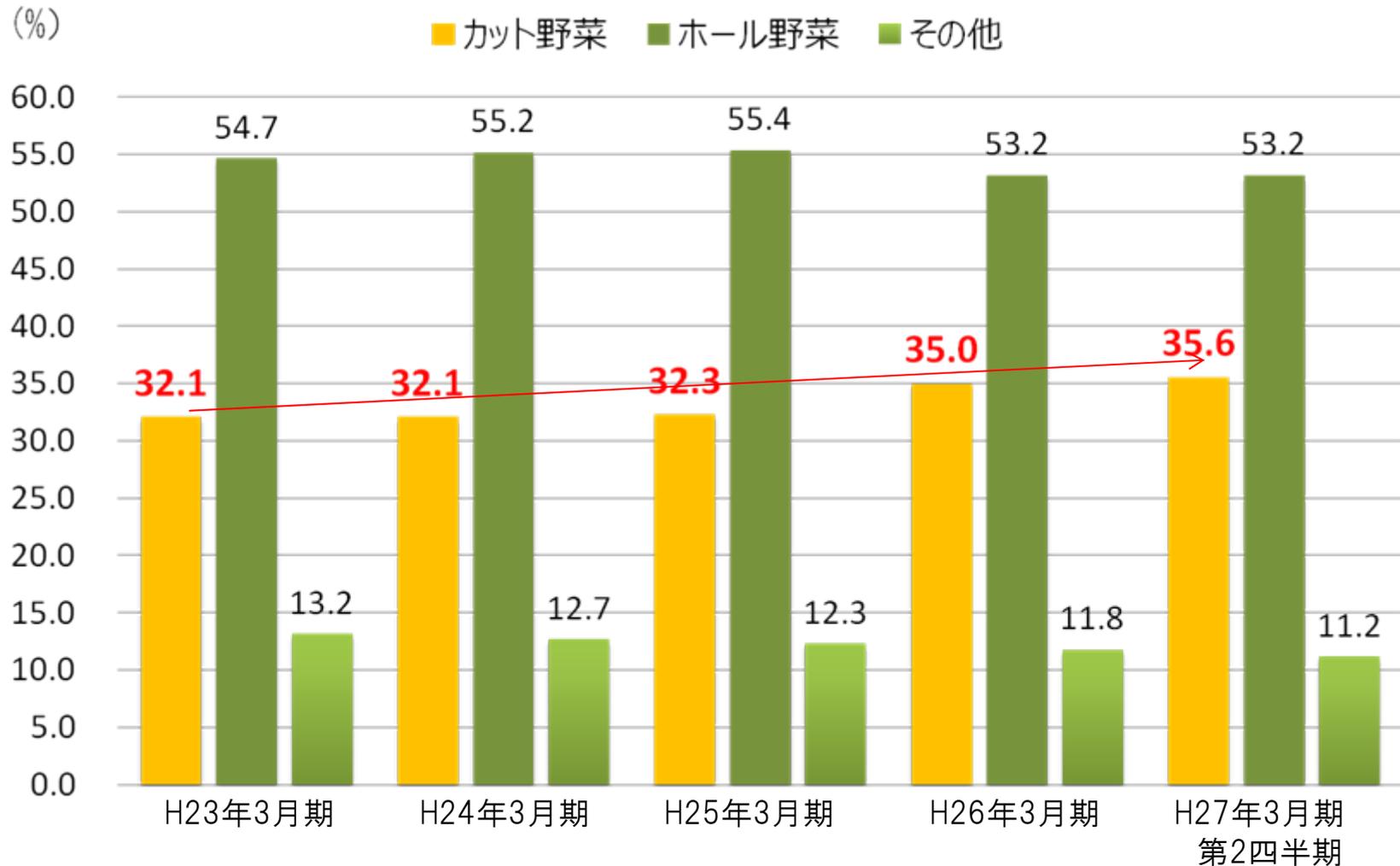


↑ 通年  
↓ 上期



# 部門別売上構成比の推移

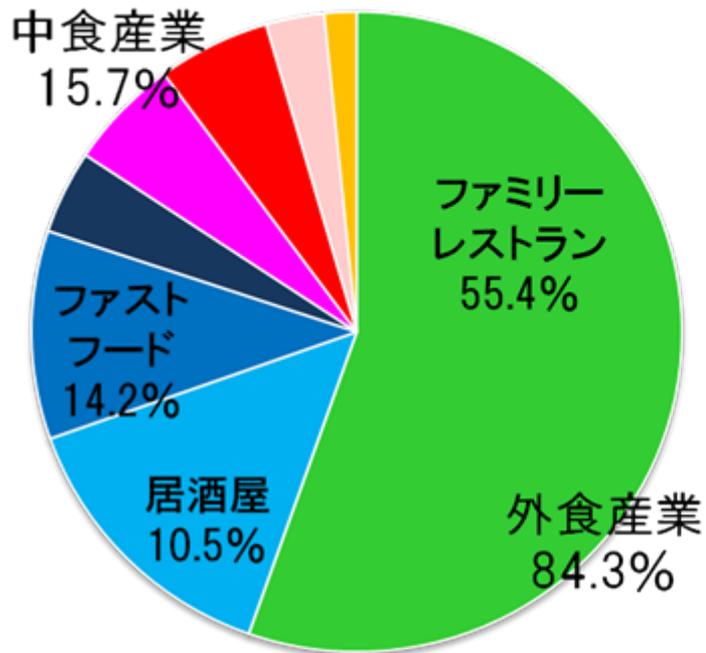
カット野菜の占める比率が上昇傾向





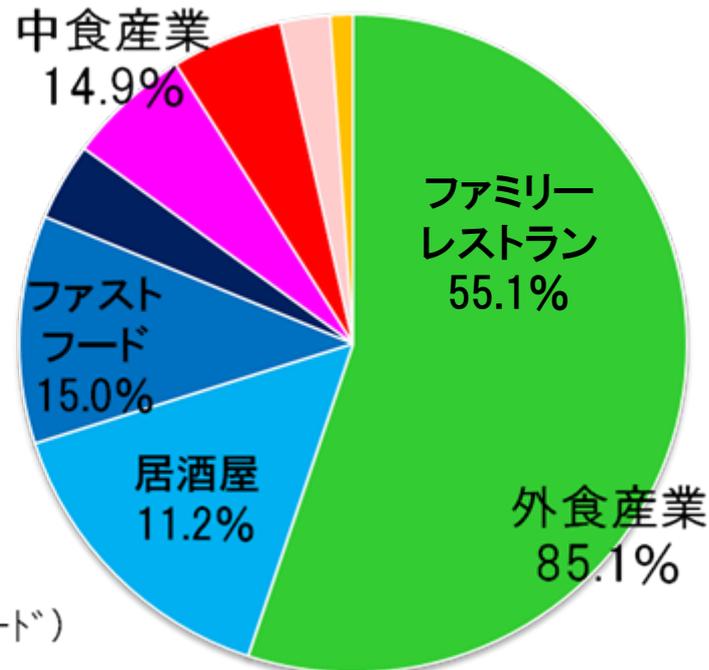
# 業態別売上高の状況

平成26年3月期



ファミリーレストラン	...	55.4%
居酒屋	...	10.5%
ファストフード	...	14.2%
弁当総菜	...	5.6%
食品メーカー	...	5.6%
給食	...	2.9%

平成24年3月期第2四半期



ファミリーレストラン	...	55.1%
居酒屋	...	11.2%
ファストフード	...	15.0%
弁当総菜	...	6.0%
食品メーカー	...	5.4%
給食	...	2.4%

- FR (ファミレス)
- FF (ファストフード)
- パブ・居酒屋
- その他外食
- 弁当・惣菜
- 食品メーカー
- 給食
- CVSV

# 中期経営計画と進捗状況



# 中期経営計画 業績目標

## 数値計画

### 成長基盤作り

- ◆事業構造の強化
- ◆成長基盤の構築

FIRST PHASE SF2015

連結売上高 27,000百万円  
 連結経常利益 750百万円

2012年4月 ~ 2015年3月

### 飛躍的成長

- ◆国内エリア拡大 (M&A含む)
- ◆海外展開
- ◆新規事業および新規マーケット参入

SECOND PHASE SF2017

連結売上高 35,000百万円  
 連結経常利益 1,050百万円

2015年4月 ~ 2017年3月

事業規模 / 事業領域



# 更なる食の安心・安全の確保

## 徹底した安全衛生管理：ISO22000認証の取得

- 東京第一FSセンターに続き、本年度、東京第二FSセンター及び神奈川事業所でもISO22000認証を取得
- 今後大阪・名古屋をはじめとするグループの全工場でISO22000認証を取得予定



## フードディフェンスの強化：FSSC22000認証の取得

- FSSC 22000は、ISO 22000(食品安全マネジメントシステム)にフードディフェンス(食品防御)の強化を盛り込んだ食品安全マネジメントシステム規格であり、今後ISOに加え、このFSSC認証取得を計画

## 工場で働くパート従業員の方々とのコミュニケーション

- パート従業員の方々を対象に安全衛生に関する勉強会を開催し、従業員間のコミュニケーションをさらに活性化





# 更なる利益体質の構築①

## 拠点拡大による更なる売上獲得 (1)

■ 2014年6月 仙台事業所を開設(売上規模:10億円)

被災地の農業復興と連携、産地から消費地まで一貫した  
次世代コールドチェーンシステムを構築

<仙台事業所>



<仙台事業所概要>

名称

東京デリカフーズ(株)仙台事業所

所在地

宮城県仙台市宮城野区日の出町

業務開始

平成26年6月16日



## 更なる利益体質の構築②

### 拠点拡大による更なる売上獲得 (2)

- 2015年4月完成予定：奈良県に新工場を建設中  
(売上規模：20億円)



#### <奈良工場概要>

##### 名称

大阪デリカフーズ(株)奈良工場

##### 立地場所

奈良県 磯城郡 田原本町

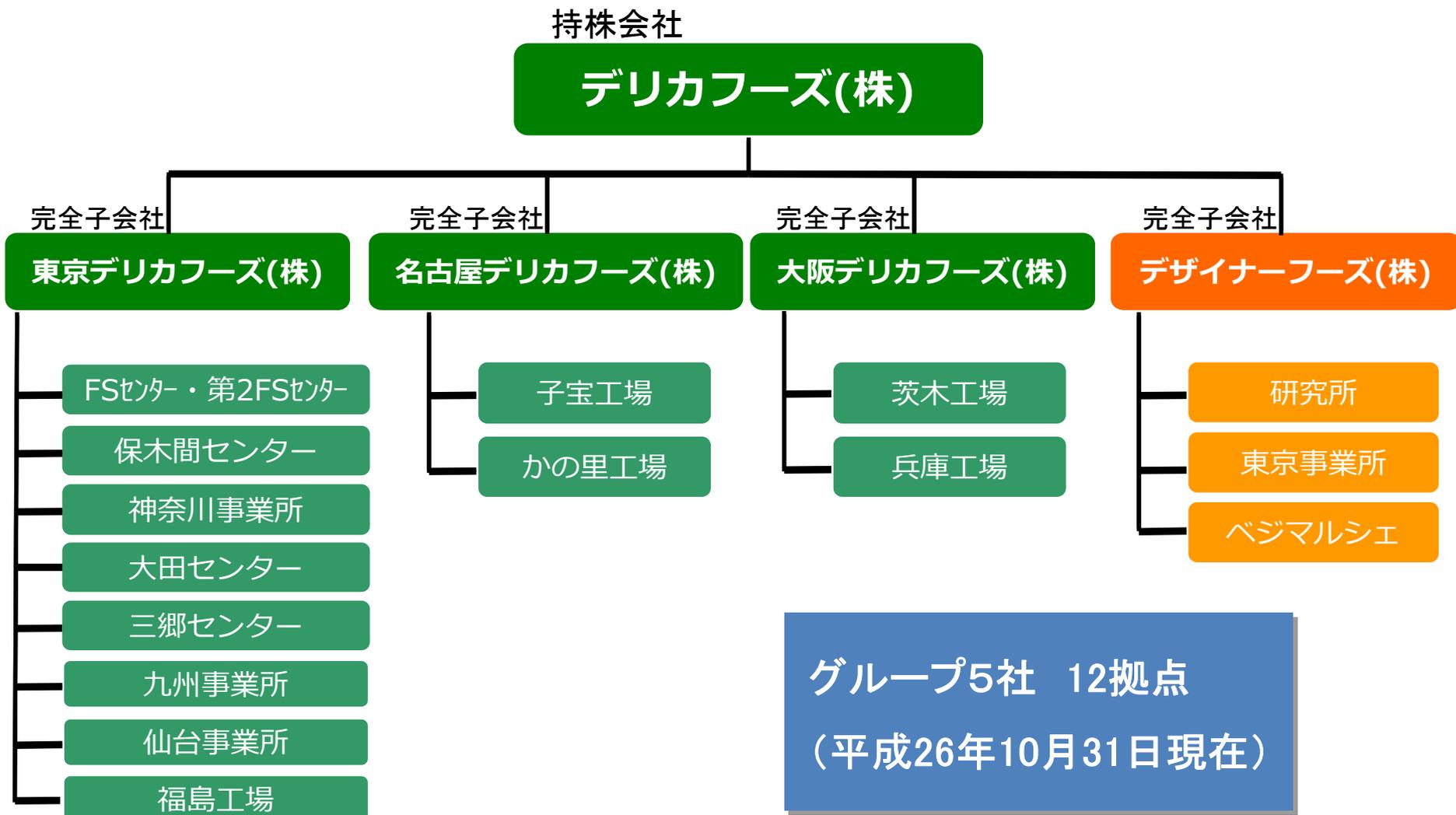
##### スケジュール

平成26年9月 着工

平成27年4月 操業開始予定



# グループ組織図





# 更なる利益体質の構築③

## 拠点拡大による更なる売上獲得(3)

### ■ 今後の事業拠点拡大計画（検討中）

2015年 中京エリア新工場設立（売上規模：20億円）

2016年 関東エリア新工場設立（売上規模：20億円）

その他エリア進出：30億円

### 2014年：国内拠点12箇所

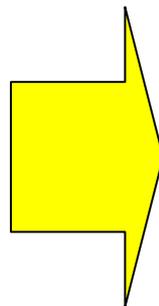
2012：国内拠点 7箇所  
 2015：国内拠点 9箇所  
 2017：国内拠点 14箇所  
 2017：海外拠点 2箇所





# 海外産地への取り組み

天災等のリスクを回避するために国内だけでなく海外の産地も開拓





# デポ化の推進による流通改革のご提案



調達部門・物流部門のコスト削減

安全の担保および鮮度・品質の向上

主要原料の天災のリスクも回避



# SF2017に向けた展開

野菜と米の研究開発への投資

B to C市場 ・ B to BC市場への参入

海外拠点の設置および海外事業展開

コンシューマー（小売）向け商品の開発・参入

ガバナンスおよびコンプライアンスの強化

# デリカフーズグループの取り組み





# 機能性を表現して野菜を販売

## 量販店・デパートの生鮮売り場からの販売指導依頼

- 生鮮売り場が変わる  
野菜を機能性で売る時代がきている



- 量販店・CVSでのカット野菜、キットメニューの販売面積が広がっている  
カット野菜も機能性を表示して販売するための研究



# 機能性を表現していく問題点

## データベースが必要

生鮮食品のとくせいとして、産地・種・栽培方法・収穫時期の違いにより成分のバラつきが想定される

美肌成分多いタイ      抗酸化優れるトマト

食品成分が体にどのような効能があるかを示す「機能性表示」が来春に生鮮品にも解禁されるのをにらみ、企業が機能性を高めた養殖魚や野菜の売り込みに力を入れている。美肌効果があるとされる成分を多く含むタイや、生活習慣病を抑制するとされる抗酸化作用の成分が多いミニトマトが代表例だ。少子高齢化で生鮮食品の消費量が減るなか、企業は付加価値を高め価格も高い商品の開発を進められる利点がある。

# 生鮮品機能表示に照準

- 野菜の産地別データベースの構築が必要
- 1成分表示では野菜の本当の機能性が表わせない
- 人の治験が必要
- 品質の違いを表現できない

## 来春解禁、商品開発進む

機能性表示解禁でこんな表示例が...		
カンパチ		中性脂肪が上昇しにくくなるDHAを摂取できる
エビ		コレステロールの吸収を抑える働きがあるキトサンを含む
ホウレンソウ		目の健康に役立つルテインを含む
トマト		抗酸化作用がある
マグロ		頭が良くなるEPAを含む
グレープフルーツ		がんを防ぐリモニンが多い

(注)消費者庁の検討会の案などをもとに作成

る。病気を防ぐなどの表示はできない。健康に関する高い消費者にとってのは商品選びの参考になる。鮮魚流通のヨシキユウは「コーゲンシリーズ」と題したタイやアフリ、カンパチを販売している。養殖魚にコーゲンを含む餌を与えることと、一般に流通している

で、コーゲンの主成分であるヒドロキノンロリルが一般に流通しているものの1.3倍になった。「表示が解禁されれば効能をうたってPRする良い機会になる」と同社は期待する。主婦層がターゲットで、卸価格はマグロで1.9倍、900円前後まで増やす予定だ。

鮮魚より3割高い。青果物販売大手のトリル(東京・千代田)は7月に抗酸化作用に優れるリコピンを従来品種の約2倍含むミニトマトを発売した。糖度も8以上と通常のトマトの2倍近くある。機能性野菜のシリーズは今後10種類程度にまで増やす予定だ。

血中の中性脂肪が上昇しにくいEPAを多く摂取できるというアフリやカンパチも登場した。橋口水産(長崎県新上五島町)が生産する養殖アフリには

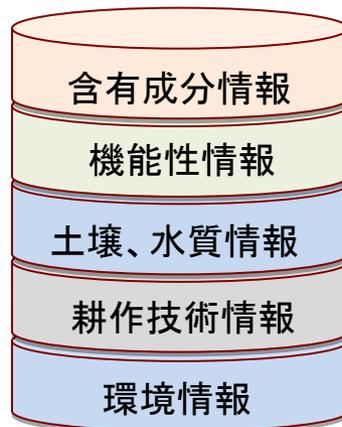
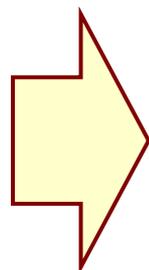
消費者庁の検討会の最終報告書案で生鮮食品への表示解禁が示された。たとえば「中性脂肪が上昇しにくいなるエイコサペンタエン酸(EPA)を含むアフリ」「骨の健康を保つ温州みかん」などの表示が可能とな



# 機能性表示方法を提案

## データベースの積み重ねと非破壊測定器

情報の関連性不明瞭  
(多変数解析法の応用)  
まずは  
データベース化

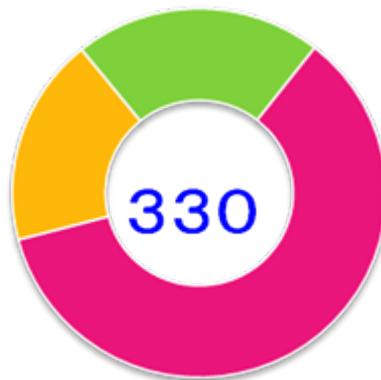


**JASDAP**  
データベース  
Japan smart data-base of  
agricultural products

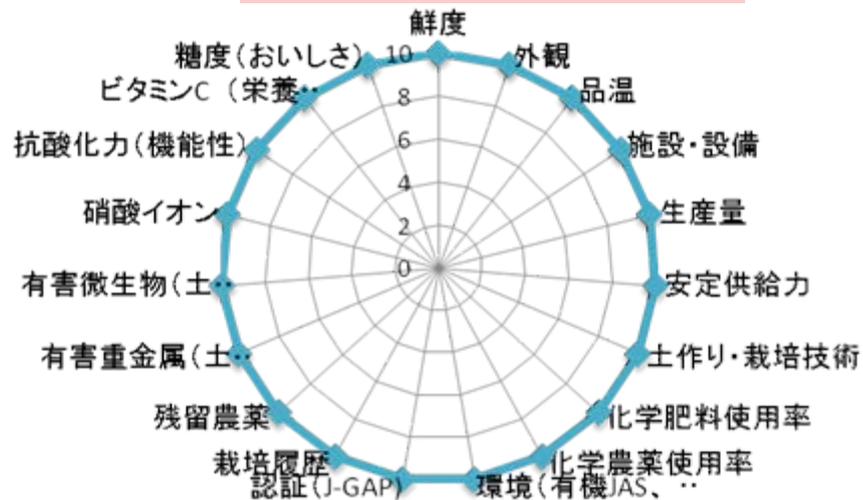
### 抗酸化表示1



### 抗酸化表示2



### 野菜情報のスコアー化





# 抗酸化研究の深耕と分析機械の開発

高齢化社会の進展に伴う消費者の「健康志向」の高まり

野菜を使用したメニューに情報をつけて提案



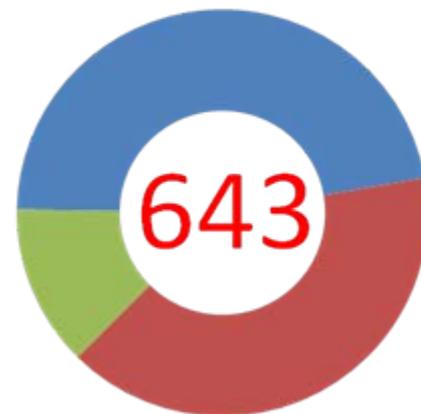
かきのきたけ



たもきたけ



白飯



きのこごはん

抗酸化力を自動的に分析できる機械装置とソフトの開発

表示にむけて多成分と抗酸化力の関係を明らかにする



# 食農医工連携による事業機会の創出

## 野菜の抗酸化研究のパイオニアとして6次産業を推進

### Farm to Wellnessセミナー

「食・農・医・工連携が  
新たな時代を創造する」



東京デリカフーズ  
「健康野菜塾」



名古屋デリカフーズ  
「ベジタブルセミナー」



大阪デリカフーズ  
「健康野菜セミナー」



デザイナーフーズ  
「生命食セミナー」



展示会  
「アグロイノベーション」

# IR Investor Relations



# 株主優待

2014年9月の日刊ゲンダイに「株主優待厳選24銘柄」としてデリカフーズが掲載

## 今年の株主優待内容

100株以上～500株未満

1500円相当のこだわり野菜の詰め合わせ

500株以上～1000株未満

3000円相当のこだわり野菜・果物の詰め合わせ

1000株以上

6000円相当のこだわり野菜・果物の詰め合わせ



New

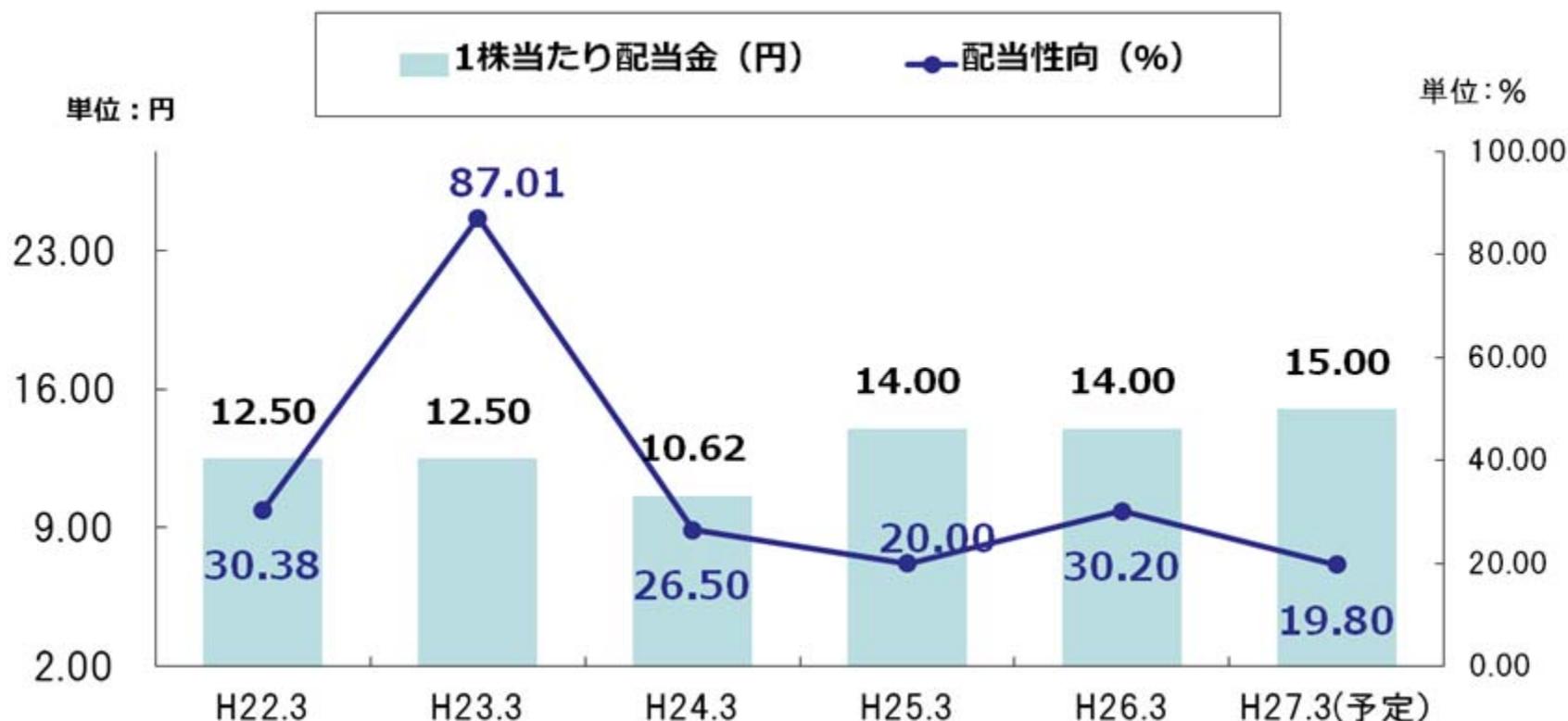
## 長期保有優遇株主優待

3年以上継続して1,000株以上保有の株主様に、通常の優待に加え  
当社オリジナルドレッシングを贈呈いたします



# 配当金及び配当性向の推移

〈1株当たり年間配当金及び配当性向の推移〉



平成24年4月1日付で1株につき200株の株式分割、平成25年4月1日付で株式1株につき2株の株式分割を実施したことにより、平成22年3月期期首に当該株式分割が行なわれたと仮定し、1株当たり配当金を算定しております。



# 1年間の値動き





デリカフーズグループは  
青果物流通業のリーディングカンパニーとして  
日本の農業の発展と

国民の健康増進に貢献します